



## いど へいざ えもん 井戸 平左衛門

寛文 12 年 (1672) ~ 享保 18 年 (1733)

井戸平左衛門正明<sup>まさあきら</sup>は、世に「いも代官」と呼ばれた名代官である。

武蔵国に生まれ、井戸家の養子となり、幕臣として 30 年あまり勘定役を勤め上げた。享保 16 年 (1731) 9 月、60 歳という年齢にもかかわらず、石見銀山<sup>いわみぎんざん</sup>を受け持つ石見国大森 (現島根県大田市) の代官に任命された。一説には、彼の実直な性格を知る大岡越前守忠相<sup>おおおかえちぜんのかみただすけ</sup>の推薦があったからともいう。翌 17 年から、備中国笠岡代官を兼務した。

時に西日本一帯はウンカの大発生によって未曾有の大飢饉となっていた。平左衛門は事態が一刻を争うと判断して、幕命を待たずに独断で陣屋の米蔵<sup>じんや</sup>を開放して、飢えた人に米を与えたという。また、被害の大きな村々の年貢を大胆に免除し、領民には助け合いの心を説いた。さらに、やせ地でもとれる食物として甘藷<sup>かんしょ</sup> (サツマイモ) を導入し飢饉をしのいだ。これらの優れた施策によって、井戸代官の支配地からは、ひとりの餓死者も出さなかったと伝えられる。

享保 18 年 (1733) 4 月 18 日に笠岡陣屋へとやって来て、5 月 26 日に亡くなった。享年 62 歳。独断で行動した責任をとって切腹したとする説と病死説があるが、医師の診察記録等の存在から、病死説が有力のようである。

平左衛門の死後、各地に功績をたたえる頌徳碑<sup>いとうくじ</sup>が建てられた。その数は、数百カ所にも及ぶという。墓は笠岡の曹洞宗威徳寺<sup>いしどうろう</sup>にある。墓前に立つ 2 基の石灯籠は、備中・備後と石見の村人が寄進したものである。

## 関連スポット紹介

### 道の駅 笠岡ベイファームに立つ「井戸明府碑」

笠岡湾干拓地の「道の駅」完成にあたり、食の大切さを訴えるため平成 23 年 8 月に建立された。「現代の食に不自由しない時代のなかで、人々が食べる物も無く餓死していった過酷な当時に思いをはせて、恵まれた環境に常に感謝の気持ちを忘れないことを誓い、海の幸と山の幸に恵まれた瀬戸内の自然豊かな笠岡の地に感謝するものです。」と結ばれている。



笠岡小学校に立つ「井戸代官終焉之地」碑



(裏)

旧御陣屋の地図に因り  
自裁した位置を茲に定める  
昭和二十七年十月建之  
井戸代官事蹟保存會

(表)

井戸代官終焉之地  
岡山縣知事 三木行治

※平左衛門が亡くなった原因については、病死説と切腹説の2説があります。

いどめいふのひ  
笠岡の井戸公園に立つ「井戸明府碑」

忠正 碑 府 明 戸 井

井戸明府正朋公頌徳ノ碑  
題額 中央農業会長従三位勲三等伯爵 酒井忠正  
笠岡ハ芋代官贈従四位井戸正朋公終焉ノ地ナリ 公幼名正明 後正朋ト改ム 通称平左衛門 又安右衛門ト称ス 寛文二年江戸ニ生ル 父ハ野中八右衛門重吉 母ハ町田氏 旗本井戸平左衛門正和ニ養ハレ 井戸氏ヲ冒ス 元禄十五年勘定役ニ進ミ享保十六年六十歳ヲ以テ石見銀山大森領代官ニ補セラル 蓋シ大森銀山ノ監督及び石見 備中 備後ノ三国内幕領ノ支配ヲ兼ヌルノ重任タリ 九月二日命ヲ拜シ 十三日早クモ大森ニ着任ス 其恪勤知ルベキナリ 銀山領ノ地 砂磧多ク耕種ニ適セザルヲ慨キ 一雲水僧ノ説ヲ容レ 囑シテ琉球芋ヲ薩摩ニ求メ 栽培増殖セシメテ救荒ノ対策トナシ 頗ル偉功ヲ挙グ 爾来関西ノ地 凶歳尚ホ克ク飢餓ヲ免ルルモノ 公ノ遺徳ニ負フ所極メテ大ナリ 翌十七年所謂享保ノ大飢饉ハ是ヲ免ルルコト能ハズ 同年十一月 公ハ幕命ヲ待ツノ暇ナク 君ノタメ民ノタメ一命ヲ捨テントハ我平生ノ志ナリト 決然租ヲ免シ 倉廩ヲ開キテ貢米ヲ飢民ニ賑恤スル等 一意救済ノ道ヲ講ズ 為メニ領内一人ノ餓死スル者無キヲ得タリ 然レドモ独断ノ責ヲ負ヒ 嗣正武ニ一書ヲ留メ 五月二十七日夜 笠岡陣屋ニ於テ心静カニ自裁シ畢ンヌ 行年六十二 泰雲院義岳良忠居士ト諡シ 威徳寺境内ニ葬ル 高邁義烈 啻ニ甘藷増産指導ノ先覚タルノミナラズ 亦以テ醇乎鋼常ヲ扶植スルノ先賢トシテ永ヘニ景仰スベキナリ 宜ナル哉 治下ノ民 其恩澤ヲ仰ギ 今尚ホ毎歳追祭ヲ行ヒテ感恩ノ誠ヲ致セルコト 今ヤ大東亜戦下 甘藷増殖ノ急叫バルルノ時 公ノ炯眼遺徳ヲ推頌スルハ 豈独リ吾人ノ感慨ノミナランヤ  
昭和十九年五月

岡山県農業会長 原 澄治撰  
広島高等師範学校講師 井上政雄書



(右側面の下部に) 建設基金醸出者  
千葉県 岩瀬亮  
建設幹旋者  
笠岡市 渡辺弁三